



# 第17回Wリーグ プレーオフ・ファイナル 第4戦 会見要旨



## JX-ENEOS サンフラワーズ

(3勝1敗・8年連続19回目の優勝)

### ■佐藤 清美 ヘッドコーチ

前半は両チームとも得点が伸びない中、「点数が取れないときはディフェンスを頑張るよう」と指示したのですが、それで選手たちがディフェンスを頑張ってくれたのでリードを保つことができました。第3Qの入りところで、このファイナルでは不調だった間宮が本来の仕事をしてきて、いつものJX-ENEOSらしいリズムが生まれてきたのでこの点差になりました。

第2戦はうちの一番のポイントであるディフェンスが崩壊してしまって103失点という恥ずかしい試合をしてしまいました。しかし、次の日にもう試合があるという短い時間の中で、選手たちがしっかり気持ちを切り替えてくれて第3戦で勝利することができたとき、優勝を意識しました。とても苦しいファイナルでした。103点というのは今までにない失点ですし、それを次の日のゲームで選手たちが切り替えてくれるのかなと思うとあまり眠れないくらいのプレッシャーでした。第2戦の敗戦が尾を引かないようにということだけを考えていました。

(第3Qを3点差で迎えて)とにかく1点でもいいから勝つように、とにかく慌てないで自分にマッチアップしている選手を見てプレーするよう指示をしました。

(積極的にベンチメンバーを起用したことについて)リーグ戦前から、ベンチメンバーでも他チームに勝てる力をつけてきたという手ごたえを感じていたので、信頼して起用できました。選手たちがよく頑張ってくれて手にした優勝です。

### ■#0 吉田 亜沙美 選手

優勝できてホッとしていますし、みんなの笑顔を見られてうれしく思っています。試合内容については、本当に苦しい時間帯が続きましたが、出ている5人が我慢してディフェンスをしっかりやってリバウンドを取り切った結果だったと思いますし、チームで勝ち取った8連覇ということでとてもうれしく思っています。今シーズンは何としてもリーグ制覇をしたかったので嬉しいです。2戦目で負けて、気持ちをしっかり切り替えようという指示を受けましたし、修正すべき点はオフェンス、ディフェンスともいろいろありました。自分自身、プッシュが足りず、全部セットプレーになって重たい展開になってしまったという司令塔としてのミスがありましたので、そこはしっかり切り替えてプレーしなければと思っていました。

常にリーグとオールジャパンの2冠を取るということは目標にしているので、8連覇というのはあまり意識していませんでしたが、今年はオリンピックイヤーでもありますので、またバスケットが取り上げてもらえたらいいなと思ってプレーしていました。

(最後足を引きずる場面もあったが?)今年キャプテンも務めていますし、最後はスタメンの5人と優勝を分かち合いたいと思い、ヘッドコーチに「大丈夫だから」とお願いしてコートに残してもらいました。

(オリンピックに向けて)優勝という目標を達成できたので、これからはオリンピックに集中したいと思います。チーム全員のおかげでMVPをいただきましたので感謝したいと思いますし、この賞に恥じないよう、オリンピックでも精一杯がんばりたいと思います。

#### ■ #21 間宮 佑圭 選手

個人としては「結果オーライ」だな、という感じファイナルになってしまいました。1戦目から3戦目まで自分自身には重たいプレーが続いていた中で、第3Qに得点に絡めたことは打開できてよかったと思うと同時に、チームのための仕事ができただけかな、とそこだけは評価できるかなと思っていますし、チーム全員で地道に頑張っていて我慢してそれが8連覇につながったことをうれしく思います。

(第3Qでリードを広げるきっかけを作ったことについて)ハーフタイムにホーバスコーチと話をして、「自分のことではなくチームのことを考えて」と言われたので、少し気持ちを楽にして全体が見えるように、自分のことでいっぱいにならないようにと思ってコートに立ったのと、それまではダブルチームに来るのに周りを見すぎてしまっていたので、まずは1on1で攻めるというのを意識しました。

(オリンピックに向けて)もう半年を切っていますので、ここから私が急激に上手くなるということは見込めないと思いますので、自分の得意なプレー、持ち味を磨いて、外のプレーも中のプレーも安定感を増したいと思います。

#### ■ #10 渡嘉敷 来夢 選手

優勝できて本当にうれしい気持ちでいっぱいです。個人としてはあまり満足していませんが、相手のマークが厳しい中でのプレーで、自分の中ではいい経験になり、来シーズンに向けて課題が見えたので、また頑張りたいなと思っています。ファイナルだけではなく、今回のリーグ戦での経験がオリンピックでも生きると思っていますので、あと4か月ほどですがもっとレベルアップできるように、自信をつけていきたいと思っています。

#### ■ #11 岡本 彩也花 選手

個人的にはミスが多く満足していませんが、チームとしては、ディフェンスから走ることができたのと、一番強いインサイドで得点を取れたので、これが勝ちにつながったと思います。

#### ■ #23 大沼 美琴 選手

個人的には反省点がありますが、苦しい時にみんなでディフェンスをして走ってというプレーができ、勝ちにつながったと思います。



# 第17回Wリーグ プレーオフ・ファイナル 第4戦 会見要旨



## 富士通レッドウェーブ(1勝3敗・準優勝)

### ■BT テーブス ヘッドコーチ

今日のゲームは、1Qはどちらもシュートが安定せず、頑張っていたがあまり内容はよくありませんでした。しかしそんな中でもJX-ENEOSさんは今日の試合で優勝を決めたい、我々は第5戦まで持ち込みたいと、両チームとも気持ちが入ったゲームになりました。どちらが我慢できるかが勝負でしたが、第3Qの途中からオフェンスの動きが悪くなり、町田のところでのハイピックばかりになってしまいました。オフェンスでの良い指示ができなかったのは私が反省すべきところです。

ただ、昨シーズンのファイナルではストレートで敗れ、レギュラーシーズンとは違う戦い方を見せる JX-ENEOS さんにショックを受けましたが、今回は1勝でき、クォーターファイナル、セミアイナルと苦しかった試合を勝ち切れたのは、選手たちは気持ちの面でタフになったからだと思います。ディフェンスは良くなっているので、あとはオフェンスがもうワンステップ、上げることができれば優勝を獲れるチームになると思います。

### ■#1 三谷 藍 選手

先日のゲームで渡嘉敷選手をいかに止めるかということが課題になったのに、今日のゲームでは、先日以上に渡嘉敷選手に得点とリバウンドをやられてしまったのが反省点です。後半はノーマークでシュートを打っているのに決め切れませんでした。

昨年より戦うことはできたと思いますが、勝負がかかった場面でのプレーの精度が、まだ足りない部分だと思います。

### ■#10 町田 瑠唯 選手

インサイドの得点、リバウンドともやられてしまったのが反省点です。もっと全員でやらなければなりません。また、大事な場面で自分がターンオーバーを連発してしまったところも悔やまれます。昨年と同じ失敗をしないようにと初戦に臨みましたが自分たちのバスケができませんでした。しかし、2戦目以降は立て直し、3・4戦目は負けこそしましたが戦うことができました。昨年からベテランが抜けたことでスタートメンバーがより自覚を持って取り組んできたことが成長につながったと思います。